

平成 30 年度 第 2 回向日市地域包括支援センター運営協議会 要点録

- 1 日 時：平成 31 年 2 月 18 日（月） 午後 1 時 45 分から 2 時 45 分まで
- 2 場 所：向日市福祉会館 3 階 大会議室
- 3 出席者
(委 員) 清家委員、内藤委員、石井委員、紙谷委員、木下委員、乾委員、高桑委員、岡田委員、藪内委員（以上 9 名）
(事務局) 水上部長、川本副部長、嶋原副課長、松井主任、荒木生活支援コーディネーター
安田北地域包括支援センター長、村上中地域包括支援センター長
野田南地域包括支援センター長
(傍聴者) なし
- 4 議 事
 - (1) 平成 30 年度向日市地域包括支援センター事業中間報告について
 - (2) 平成 31 年度向日市地域包括支援センター事業方針について
 - (3) その他
- 5 資 料
資料 1 「平成 30 年度向日市地域包括支援センター事業中間報告」
資料 2 「平成 31 年度向日市地域包括支援センター事業方針」
参考資料「向日市地域包括支援センター運営方針」
- 6 内 容
議事(1) 平成 30 年度向日市地域包括支援センター事業中間報告について
事務局から、平成 30 年度の地域包括支援センター（以下「包括」という。）の相談実績や介護予防ケアマネジメントの状況、介護予防支援事業や地域ケア会議及び高齢者虐待等に関する支援検討会の開催状況などについて説明を行った。（資料 1）

(質疑・意見要旨)
委員 平成 29 年度に比べて相談実績が多いが、要因は何か。
事務局 総合事業が始まり説明が必要。対応困難なケースも増えている。
委員 相談内容別件数について、グルーピングを考えてはどうか。
数は少ないが、警察と消防は相談内容の性格が違うので、分けた方

が良いのではないか。

- 事務局 管理システム上、このグルーピングになっている。
- 委員 地域の高齢者が利用しそうな事業所とつながる取り組みをしてほしい。
- 委員 誰が相談者なのか一目でわかるように整理して欲しい。
- 事務局 各包括に共通のシステムが組み立てられており、システム改修をしなければならない。予算が必要。
- 委員 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業について、プラン作成が多く、オーバーワークになっていないか。
- 事務局 委託料の増額があり、プランナーを0.5人おくことで、少し楽になった。
- 会長 データを通じて支援や業務のあり方を検討するために、データのみせ方や業務のあり方について見なおす必要があるのではないか。
- 事務局 コンピュータの関係もあり、見せ方については直ぐには変更できないが、参考にしたい。

- 議事(2) 平成31年度向日市地域包括支援センター事業方針について事務局から、平成31年度の基本方針や重点取組項目について説明を行った。
- 引き続き、包括の現状と課題取組方針について、各包括担当者から説明が行われた。(資料2)

(質疑・意見要旨)

- 委員 以前、認知症地域支援体制構築事業という事業があり、2地区をモデル地域として認知症の人に支援を行っていた。
A地区には課題が多かったが、検証されないまま事業が終了してしまった。
- 事務局 現在は認知症地域支援推進員が引き継いで行っている。
各包括が認知症地域支援推進員にケースを通じて連携し、地域を作っていくということで事業方針に上げている。
- 委員 若い人が認知症サポート体制の中心になって行けるように育っているか、皆でどうシステムを作っていくかが課題だと思う。
- 会長 市で意見交換の場、企画や考えはあるか。
- 事務局 医師会と開催するシンポジウムも、地域の連携などを考えていただくことを目的としている。

- 委員 出前講座は、内容をパターン化して年間を通して計画的に行った方がスムーズではないか。
地域ケア会議は定期的を開催できるよう具体的な方法を考えてはどうか。
- 委員 介護サービスについて説明するようなイベントを市や包括で行なえば良いのではないか。
- 委員 口腔ケアや歯科医師会がどういうことをやっているかについて知ってもらえるよう場を作っていただきたい。
- 委員 乙訓医師会は在宅医療・介護連携について、ネットワークの構築に重点を置くことになっている。
- 委員 民生委員で井戸端会議というものを行い、地域づくりを行っている。地域のつながりが大切だと思う。
- 委員 テレビで紹介されていたフランスのジネスト氏のユマニチュードは効果があるので積極的に取り入れて対応してもらいたい。
- 会長 ユマニチュードは言葉にできなくても気持ちを読み取るということだが、家族のストレスの軽減、家族ケアと、対応のスキルを磨くことが大切である。
- 委員 認知症の人に対応する時に介護者の気持を冷静保つことが重要。勉強していくことが大切だと思う。
- 会長 シンポジウムは概論的な話を聞いて終わりになるので、個別で勉強する体制や、ディスカッションする場を作ることが大切。
自分の健康や困りごとについてSOSを出せる力をつけ、他の人にも気配り・目配りができる人材を育成している。
- 委員 健康推進課は予防活動が中心、包括や高齢介護課と連携し、予防という接点で役に立てることがないか考えたい。
- 委員 地域共生社会という概念が重要である。
地域住民に対し何かしてあげるというのでなく、一緒になって生きがいを持って生活できる地域づくりを意識していかなければならない。
- 会長 地域共生というのは支えてもらうだけでなく、誰かを支える、お互いさまという感覚が大切。
地域共生は引き続き考えていかなければならない案件である。

7 今後の予定

次回の運営協議会は平成 31 年 8 月頃の予定